

南日本新聞



日本最大級 ハマサンゴ

喜界島沖、調査団が確認

喜界町は15日、喜界島南西の沖合で、直径約4メートル、高さ約5メートルの日本最大級のハマサンゴが発見されたと発表しました。地球温暖化研究のため、6日から同島を訪れていた東京大学海洋研究所の横山祐典准教授らの調査団が確

喜界町南西沖で発見された日本最大級のハマサンゴ(東京大学海洋研究所・横山祐典准教授提供)

認。年輪計測の結果、約400年にわたり成長し続けていることが分かった。

調査団は今後、ハマサンゴから柱状に採取した試料の分析を進め、過去400年間の海洋変化や温暖化の傾向を復元する。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次報告書に反映させたいと考えて、横山准教授は「地球の気候システム解明の貴重なデータになる」と話している。

ハマサンゴは南西諸

島などの海に広く生息するハマサンゴ科の生物。年輪には過去の水温や塩分濃度などの気象情報が蓄積されている。調査団は研究者ら5人で、昨年からの島周辺の海域を調べていた。

同町は発見されたハ

マサンゴを文化財に指定する方針。同町産業振興課は「天恵から生きたきたサンゴは島の宝。連携と連携して守りたい」と話している。